



海辺の宝ものを読んで

渋谷本町学園小学校 五年A組 熊澤 璃子

「化石ってそんなにすごいものなの？」この本を読むまでは化石について何も知らなかったし興味も持っていなかった。約二百年前、イギリスのライム・リージスという村でもすごい事件が起こった。事件といっても良い事件だ。今まで誰も見つけられなかった新種の生き物の化石が見つかったのだ。その化石を見つけたのは十一さいの少女、メアリーだ。私はとてもおどろいた。今の私と同一年の少女が世界の歴史に残るような発見をしたからだ。

メアリーは家族を支えるために化石を集めてそれを売った。でも、お金をかせぐだけならほかの仕事でもいい。メアリーは本当に化石が好きだったんだと思った。好きな事を全力でやり続けた事がこの大発見につながったのだと私は思う。そんなメアリーと自分を比べて私は少しはずかしくなった。今の私はメアリーのようにうちこんでいる事があるのだろうか。私は、いくつも習い事をしていてさらに部活もしている。どれもとても楽しい。習い事は親がお金を払ってくれているからできる。今は二百年前と比べてとても平和で差別もない。こんなにくぐまれた時代に生きている私は好きな事も見つけやすくそれを叶える事も簡単なはずだ。それなのにメアリ

―ほどの気持ちをもってやりたい事が見つかっていない事に気付いた。なんてぜいたくでもつたいない毎日は私は過ごしているのだろう。

今年はブラジルでオリンピックが行われている。オリンピック選手もその競技が得意なだけでは代表になれなかったのではないか。本気で好きで練習し続けた選手がリオの舞台に立てたのだろう。テレビで見てもその真剣な思いが私にも伝わってきて、選手と一緒に泣いたり笑ったりした。

メアリーは化石の事を「宝もの」とよんでいる。もちろん発見された化石は生物のナゾを解くための宝だ。しかし、メアリーにとっての化石はお父さんに探し方を教えてもらい、お兄ちゃんと一緒に発掘しおいしいお弁当でお母さんに応えんしてもらい見つけたものだ。家族の思い出が詰まった大好きな化石だからメアリーは宝物とよぶようになったのだと私は思う。

今の私には、「宝もの」とよべるものがまだないと思う。でも、いつか必ず見つけたい。そして全力で取り組みたい。きっとその時の私にも家族の応えんや周りの人の支えが、メアリーと同じ様にあるだろう。感謝の気持ちをわすれず、めぐまれた時代に生きている事が決してあたりまえの事ではないのだから毎日を大切に過ごそうと思う。そして、好きな事をやりぬいたメアリーのように強い心を私も持ちたい。